

## マダラカマドウマ

澄川基地の古いポンプ小屋を物置として車運転を辞めた3人が作業衣や装備品を置いていますので、参加に際してはまず一番に解錠して開扉します。やいなや数十匹もいようかと見えるカマドウマたちが飛び跳ねまくってパラパラと音をたてて、壁や物にぶつかり我先に身を隠すのに会うのはこの時期毎度のことです。この日たまたま扉の裏で静止してくれた一匹の映像をゲットしました。2016年7月29日9時6分と記録されました。

図鑑「札幌の昆虫」にはバッタ目カマドウマ科としてモリズミカマドウマとマダラカマドウマの2種類しか記載されていませんが、分布的には日本列島北海道から沖縄諸島にかけて生息し、島別亜種扱いされているようで、専門家でも分類や同定が混乱しているみたいです。カマドウマ属として海外では東南アジアから東アジアにかけて分布しているとのこと。

右上の画面で見えにくいのですが、触角は画面左下いっぱい長さです。体長の5倍ほどあります。羽根はありませんので、一見不気味です。キリギリスの羽根をむしって少し背中を丸めて色を変えたような体形です。後肢が著しく発達していて、跳躍力が凄いのです。生態は夜行性で昼間は物置や昔の便所や台所の暗い所に身を隠しているの、便所コオロギとの地方名があるとのこと。しかし夜ともなれば森に飛び出してすさまじい雑食性を発揮しまして、森の生態系の中では夜盗のごとき存在のようです。飼育記録によりますと人間の食べるものならずべてOKとのこと。であれば物凄く繁殖できるのですが、昼の森では天敵が多くて身がもたない宿命にあるから、止む無く夜行性になったと思われる。

ネットで、不気味にも見える動物食の実態がわかる画像を見つけたので、紹介しましょう。左が大きな蛾の死骸を食べているところ、右が羽化の初めの背中が割れたばかりのセミを襲って食べているところ。すっげー。

